

甲賀市レッドリスト 2022 魚類 概要

◇ 甲賀市の魚類（魚類相および地理分布の特徴、解明度）

- ・ 甲賀市の魚類（淡水魚類）は、移入種や外来種も含めると、市内で計 54 種の記録がある（「甲賀市魚類目録および生息状況 2017」）。しかし、記録が 1 例の種類もあり、人為的な放流等により一時的に見られた種が含まれる可能性がある。また、滋賀県立琵琶湖博物館の“うおの会”の調査により、甲賀地域の魚類の分布の傾向も確認されている（滋賀県立琵琶湖博物館うおの会，2005）。また、みなくち子どもの森園内と前の野洲川では合計 26 種の魚類が確認されている（河瀬ほか，2010）。
- ・ 甲賀市の河川水系には、市内の鈴鹿山脈を源流域とする野洲川水系と、信楽山地を起源とする大戸川、信楽川水系の大きく 2 つがあり、魚類相に特色がある。
- ・ 野洲川は、土山地域の鈴鹿山脈から水口地域をとおって、草津市、守山市付近で琵琶湖に流入する県内最長の河川であり、主な支流として、土山地域の鈴鹿山脈を起源とする田村川、甲南、甲賀地域の鈴鹿山脈や丘陵地を起源とする杣川、水口町北部の丘陵地を起源とする思川がある。鈴鹿山脈の源流域にはイワナが残存し、山間部の支流にはタカハヤ、アマゴ、カジカが生息する。上流部の土山地域には、礫質の河床が優占し、カワムツ、ズナガニゴイ、ナガレカマツカ、アジメドジョウ、カワヨシノボリ、アカザ、アユなどが生息し、大規模ダムの無い田村川の魚類相は特に豊かである。ただし近年、野洲川上流域の青土ダムや杣川上流の櫟野ダムにコクチバスが定着し、ダム下流の河川の深みでもコクチバスが目撃される状況で、漁業被害も懸念される。水口地域や支流の杣川、思川では砂泥質の河床が多く、カワムツ、タモロコ、ムギツク、ドンコなどが見られる。
- ・ 大戸川、信楽川は、信楽山地からそれぞれに瀬田川（宇治川）に合流する。大戸川は花崗岩の山地を起源とする支流が多いため砂質の河床が優占し、信楽川は上流部の一部を除くと礫質の河床が多い。砂質の部分では、カワムツ、カマツカ、カワヨシノボリ、ドンコ、のほか、シマドジョウ（ニシシマドジョウかオオシマドジョウ）が多く確認される。信楽川の礫質の河床では、アジメドジョウ、アカザも見られる。
- ・ 野洲川水系の水口町、甲南町、甲賀町一帯の丘陵地域には 3000 以上もの溜池が存在しており、溜池の魚類相が豊かである。ギンブナ、コイ、モツゴ、トウヨシノボリのほか、一部地域にはカワバタモロコも見られる。しかしながら、自動車が堤にアプローチできる大きな池では、オオクチバスやブルーギルが優占し、魚類相、水生生物相に乏しい池が目立つようになった。丘陵部の水田付近の水路には、ヌマムツ、ドジョウ、ドンコ、ミナミメダカが生息する場所があり、湧水が豊かな谷津田の水路ではホトケドジョウが見られる。

◇ 甲賀市レッドリスト 2022 魚類 掲載方針

- ・ 甲賀市レッドリストでは、市内に分布する淡水魚類を評価対象とした。ただし、ブラックバス、ブルーギルなど外来種として、評価対象としなかった。また市内で記録されるハリヨ、ヌマチチブも国内移入種として、評価対象外とした。
- ・ 2017年のレッドリスト策定後、市内各地の川の生き物観察会や有志の方らを通じて、市内の魚類についての情報が自然館に収集されており、そうした情報を基に、県内の魚類に関する有識者らの意見をふまえて、今回の甲賀市レッドリスト2022を作成した。
- ・ カテゴリー定義：「絶滅種」は過去に生息したが、現在は見られない種。「絶滅危惧種」は、生息域が極めて限定される。数カ所以内の生息地。過去に確実な記録があるが、現状では確認が困難。「絶滅危機増大種」は生息地が少ない。生息域が限定される。「要注目種」は情報不足のため、上記分類群に入る可能性が高いが決定できないもの。良好な環境に生息する指標種で注目が必要な種、の定義で選定した。「地域種」については、地理的に甲賀市付近に特徴的な分布をする種や、市内に特有な形態や遺伝の型が分布する種を選定した。市内に広く分布し親しみ易いというだけでは掲載しないこととした。

◇ 甲賀市レッドリスト2022 魚類 掲載種の概要

- ・ 各カテゴリー掲載種数（甲賀市レッドリスト2007、2012、2017と比較）は以下表のとおりであった。

表. 甲賀市レッドリスト2022 魚類 掲載種数

＼	2022	2017	2012	2007	備考
絶滅種	0	0	0	0	
絶滅危惧種	5	5	5	2	
絶滅危機増大種	10	9	8	7	
要注目種	5	5	6	12	
地域種	3	3	3	3	地域種の定義変更(2012)
(合計種数)	23	22	22	24	

- ・ 掲載種として、絶滅危惧種ではカワバタモロコ、アブラボテ、ギギ、イワナ（野生型）、ビワマス、絶滅危機増大種ではスナヤツメ（南方種）、ナガレカマツカ、ズナガニゴイ、ムギツク、アカザ、ホトケドジョウ、カジカ、ミナミメダカなど、要注目種ではアブラハヤ、シマドジョウ（オオシマドジョウ、ニシシマドジョウを含む）、ナマズなど、地域種はアユ、アジメドジョウ、カワヨシノボリが指定された。

◇ 甲賀市レッドリスト2017 魚類 からの変更とその理由

- ・ 絶滅危惧種5種（前回5種）の種リストは変更ない。
- ・ 絶滅危機増大種10種（前回9種）では、前回9種が留まった。新たに2019年に新種記

載されたナガレカマツカの分布が市内で確認され、生息環境が限定されるために、絶滅危機増大種に掲載された。

- ・ 要注目種 5 種（前回 5 種）では変更がない。
- ・ 地域種 3 種（前回 3 種）においても変更がない。

◇ 甲賀市レッドリスト 2022 魚類 今後の対策・留意点

- ・ 絶滅危惧種の魚類は、市内から絶滅してしまう可能性が少なくない。現存の生息地を注意深く見守り、人為的な環境変化を起ささないように十分な配慮が必要である。特に、アブラボテが安定的に生息するのは杣川流域の一部のみである。ギギの記録は少ないが、この数年内に土山や水口で幼魚が得られた。カワバタモロコが生息する多くの池は、オオクチバス、ブルーギルなど外来魚の侵入で環境が激変する脅威にさらされており、池の周囲の樹林が繁茂することで、餌の生物の発生量が減少し、繁殖が十分に行われていないと思われる場所も確認された。一方で公園内の外来魚が侵入していないビオトープにカワバタモロコを放流したところ、盛んに増殖した事例も観察した。ビワマスについては 2016 年以降、甲賀市では 10 月下旬～11 月上旬に、まとまった個体数の遡上が観察され続けており、土山町と水口町の野洲川では春に数 cm のビワマスと思われるサケ科魚類の稚魚が確認されている。
- ・ 絶滅危機増大種と要注目種については、今後の調査結果によって、変更する可能性が十分にある。この 5 年の調査により、ムギツクやナマズは大戸川流域でも一定の生息が確認され、アブラハヤは野洲川近辺の湧水路や河川敷内の湧水流で見られることが判明した。モツゴの分布情報は増えておらず、減少が明らかと思われる。スナヤツメ南方種、イトモロコは調査によって、生息状況の判断が変わる可能性が大きい。
- ・ ウグイの古い文献記録がある。
- ・ イワナ、アマゴ、アユについては、野生型と放流型の区別を行ったうえで、野生型が継続的に生存できる自然環境を保全することが、長期的な視点から重要である。
- ・ この数年、野洲川でコクチバスが急増している。以前は青土ダム、櫛野ダムなどに放流されて定着したことが聞かれたが、最近では野洲川本流の堰下流側の溜まりなどに、複数の個体が確認され、幼魚も見られることから繁殖していると推察される。アユなど外来魚が捕食されるおそれがある。

【参考文献】

環境省 (2020) 環境省レッドリスト 2020. <<http://www.env.go.jp/content/900515981.pdf>>

(2020 年 3 月 27 日公表、2022 年 9 月閲覧).

河瀬直幹・小西省吾・横山明子・西村淳子・新保建志 (2010) みなくち子どもの森の魚類.

みなくち子どもの森自然館(編), みなくち子どもの森年報告第5号(平成17~20年度), pp. 62-63.

甲賀市みなくち子どもの森自然館(2007) 甲賀市レッドデータブック- 守ろう!!甲賀の自然と生き物. 80pp. 甲賀市, 甲賀.

甲賀市みなくち子どもの森自然館(2013) 甲賀市レッドリスト 2012

<<http://www.city.koka.lg.jp/item/10943.htm>> (2018年1月閲覧).

甲賀市みなくち子どもの森自然館(2018)甲賀市レッドリスト 2017

<<http://www.city.koka.lg.jp/item/11775.htm>> (2022年9月閲覧).

滋賀県立琵琶湖博物館うおの会(2005) 琵琶湖博物館研究調査報告第23号. みんなで楽しんだうおの会. 233pp. 滋賀県立琵琶湖博物館, 草津.

滋賀県生きもの総合調査委員会(2021) 滋賀県で大切にすべき野生生物-滋賀県レッドデータブック 2020. 675 pp., 滋賀県自然環境保全課, 大津.

【魚類担当者: 氏名(所属)](敬称略、あいうえお順)

金尾 滋史(滋賀県立琵琶湖博物館)

新保 建志(甲賀市立中学校)

中谷 成一(滋賀県生物環境アドバイザー)